

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当中間連結会計期間のわが国経済は、IT関連業界の在庫調整の一巡に伴う輸出の回復は見られませんが、国内需要は依然弱く、設備投資は減少を続け、個人消費も低調に推移する等、厳しい状況が続きました。米国経済は、期初にはIT関連業界の在庫調整の一巡や個人消費の下支えもあって回復基調をたどりましたが、ハイテク企業の業績不振や企業会計に対する不信感から株価が急落する等、徐々に厳しさを増してまいりました。一方、欧州の経済はIT関連の在庫調整の一巡もあり輸出は持ち直したものの個人消費が伸び悩み低調に推移いたしました。アジアの経済は輸出の回復、個人消費も回復基調にあり比較的堅調に推移いたしました。

当社製品の主力市場であります情報通信機器関連市場は、在庫調整の一巡に伴い需要が一時回復いたしました。6月以降は引き続き厳しい状況のまま推移いたしました。

当社はかかる経営環境下で、販売、生産活動の一層の効率改善、品質の向上及び高付加価値製品の開発に努めました。

この結果、売上高は137,249百万円と前中間連結会計期間と比べ367百万円(0.3%)の増加となりました。

営業利益は10,176百万円、経常利益は7,667百万円と価格競争の激化もあり、それぞれ前中間連結会計期間と比べ2,320百万円(18.6%)、1,284百万円(14.4%)減少いたしました。中間純利益につきましては税効果会計による法人税等調整額に1,934百万円を計上したこと等により2,543百万円と前中間連結会計期間と比べ1,840百万円(42.0%)の減少となりました。

事業の種類別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

機械加工品事業

機械加工品は当社の主力製品であるボールベアリングの他に、主として航空機に使用されるロッドエンドベアリング、ハードディスク駆動装置(HDD)に使用されるピボットアセンブリ等のメカニカルパーツ、自動車及び航空機用のネジ、防衛関連製品が含まれております。ボールベアリングは、総じて好調に推移いたしました。中でも、家電業界向けと自動車業界向けは堅調でありました。情報通信機器関連業界向けは、在庫調整の一巡により一時的に需要は回復しましたが、6月以降は減少傾向をたどりしました。

また、ロッドエンドベアリングは昨年の同時多発テロ以降、主力市場である航空機業界よりの需要が減少し、厳しい状況が続いております。この結果、売上高は60,309百万円、営業利益は9,163百万円と前中間連結会計期間と比べ、それぞれ1,886百万円(3.0%)、3,401百万円(27.1%)の減少となりました。

電子機器事業

電子機器事業はHDD用スピンドルモーター、ファンモーター、ステッピングモーター等の各種精密小型モーター、キーボード、スピーカー、光磁気ディスクドライブ、スイッチング電源、及び計測機器が主な製品であります。

主要客先であります情報通信機器関連市場からの需要は伸び悩み、価格競争は一層厳しさを増してまいりました。このような中で、ステッピングモーターの販売は低迷いたしました。ファンモーターは売上を伸ばし、キーボードも堅調に推移いたしました。HDD用スピンドルモーターについては、第1四半期は好調に売上を伸ばし、第2四半期は需要の低迷もあり一時的に売上が減少しましたが、上半期通期での売上は大きく増加いたしました。この結果、売上高は76,940百万円、営業利益は1,013百万円と前中間連結会計期間と比べ、それぞれ2,962百万円(4.0%)の増加、1,087百万円の増加となりました。

所在地別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

日本地域

日本地域は多くの顧客が厳しいデフレ圧力に対応するため、生産品目を海外の子会社に移転するなどの影響に加え、情報通信機器関連の需要は低迷しており、売上高は38,332百万円と前中間連結会計期間と比べ6,052百万円(13.6%)減少いたしました。営業利益は海外子会社よりの製品輸入仕入価格が低下したこともあり、1,151百万円と前中間連結会計期間と比べ703百万円(156.9%)の増加となりました。

アジア地域

アジア地域は日本、欧米のパソコンや家電メーカーの生産拠点として重要な地域であります。日本、欧米の情報通信機器関連の需要の回復遅れの影響を受けましたが、日本の顧客による生産品目の当地域移転が進んでおり、販売は堅調に推移いたしました。一方、当地域の生産拡大に合わせて価格競争も激化しております。この結果、売上高は51,991百万円、営業利益は7,184百万円と前中間連結会計期間と比べ、それぞれ7,785百万円(17.6%)の増加、2,399百万円(25.0%)の減少となりました。

北米・南米地域

北米・南米地域はキーボード、及びスピーカー、ファンモーター等の電子機器製品の販売は堅調に推移いたしました。一方、昨年同時多発テロ以降、ロッドエンドベアリング等は主力市場である航空機業界よりの需要が減少し厳しい状況が続きました。その結果、売上高は30,227百万円、営業利益は839百万円と前中間連結会計期間と比べそれぞれ1,045百万円(3.3%)、399百万円(32.2%)の減少となりました。

欧州地域

欧州地域は経済の減速傾向が強まる中で、ボールベアリング、及びロッドエンドベアリングなどが堅調に推移いたしました。電子機器の伸び悩みもあり、売上高は16,697百万円、営業利益は1,001百万円と前中間連結会計期間と比べ、それぞれ321百万円(1.9%)の減少、224百万円(18.3%)の減少となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当社グループは、「財務体質の強化」を主要な経営方針とし、総資産の圧縮、設備投資の抑制及び負債の削減などを進めてまいりました。当中間連結会計期間における現金及び現金同等物の残高は11,634百万円と前連結会計年度と比べ2,318百万円（16.6%）の減少となりました。

当中間連結会計期間の各活動におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

業績の向上を強力に進めましたが、営業活動によるキャッシュ・フローは14,583百万円の収入と前中間連結会計期間に比べ3,072百万円（17.4%）の減少となりました。

設備投資の支払いによる8,019百万円の支出等の結果、投資活動によるキャッシュ・フローは7,846百万円の支出と前中間連結会計期間に比べ4,749百万円（37.7%）の支出の減少となりました。

また、短期借入金及び長期借入金の合計5,907百万円の返済等により、財務活動によるキャッシュ・フローは8,713百万円の支出となり前中間連結会計期間に比べ7,674百万円（738.6%）の支出の増加となりました。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当中間連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
機械加工品	59,771	89.1
電子機器	77,668	102.3
合計	137,439	96.1

- (注) 1. 金額は、販売価格によっております。
 2. 金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. 金額は、セグメント間取引の相殺消去後の数値であります。

(2) 受注状況

当中間連結会計期間における受注状況を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高 (百万円)	前年 同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年 同期比 (%)
機械加工品	58,472	105.7	32,451	87.6
電子機器	76,329	103.8	22,873	108.5
合計	134,801	103.8	55,324	94.4

- (注) 1. 金額は、販売価格によっております。
 2. 金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. 金額は、セグメント間取引の相殺消去後の数値であります。

(3) 販売実績

当中間連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
機械加工品	60,309	97.0
電子機器	76,940	104.0
合計	137,249	100.3

- (注) 1. 金額には、消費税等は含まれておりません。
 2. 金額は、セグメント間取引の相殺消去後の数値であります。

3 【対処すべき課題】

経営の基本方針

当社グループは次の「五つの心得」を、会社経営の基本方針としております。

従業員が誇りを持てる会社でなければならない。

お客様の信頼を得なければならない。

株主の皆様のご期待に応えなければならない。

地域社会に歓迎されなければならない。

国際社会の発展に貢献しなければならない。

この基本経営方針の下に、当社グループは「高付加価値製品の開発」「製品の品質の高度化」に積極的に取り組み、当社グループの実力を発揮出来る分野に経営資源を集中すると共に、「財務体質の強化」を中心とした企業運営の強化と社内外に対して解りやすい「透明度の高い経営」の実践を心がけております。また、「環境保全活動」については、当社グループが世界各地で事業を展開する上で最重要テーマの一つとして従来から徹底した取り組みを続けております。

当社グループはこの会社経営の基本方針に基づき「徹底した一貫生産体制」「大規模な量産工場」「整備された研究開発体制」を世界各地で展開し、世界最強の総合精密部品メーカーとして収益性を高め、企業価値を引き上げることを目標としております。

これらを実現する為の課題を要約すると、次の様になります。

ベアリング及びベアリング関連製品事業の一層の強化拡充をはかる。

スピンドルモーター（流体軸受搭載を含む）及びファンモーター等の精密小型モーターを中心とする回転機器を、更に拡充しベアリング関連製品と並ぶ柱に育てる。

全ての製品について、高付加価値製品の比率を引き上げると同時に、製品の幅を広げ、より広範囲な市場に対応出来る様にする。

4 【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、提出会社は次の経営上の重要な契約を行いました。

- (1) 本年6月に、松下電器産業株式会社とハードディスクドライブ用動圧流体軸受モータ事業に関する生産受託について基本合意し、契約書を締結しました。
- (2) 本年8月に、ハンシングループ(本社シンガポール法人Huan Hsin Holdings Ltd.)との間で、シンガポールに合弁会社を設立し、その合弁会社が中国に設立する子会社の工場においてパソコン用キーボードを生産する事について基本合意し、契約書を締結しました。

5 【研究開発活動】

当社グループは、各種ボールベアリング及びその応用部品に代表される精密機械部品、ロッドエンドベアリング、高級ファスナーを始めとする航空機部品、また最先端の電子機器に使用される各種電子部品等の製造及び販売を行っており、それぞれの分野での研究開発は、当社及び世界に展開するグループ各社の技術部門間で相互に密接な連絡を取り効果的に進められております。

また、当社グループは軽井沢製作所、浜松製作所、タイ、シンガポール、中国、米国及び欧州の各拠点にR&Dセンターを有しております。

当中間連結会計期間におけるグループ全体の研究開発費は4,782百万円であり、この中にはタイ、シンガポールのR&Dセンターで行っている各種基礎材料の解析等、事業別に配分できない基礎研究費用126百万円が含まれております。

当連結会計期間における事業の種類別セグメントの研究開発活動は、次のとおりであります。

機械加工品事業

軽井沢製作所及びタイ、シンガポールのR & Dセンターに加え、新たに上海のR & Dセンターにおいても各種製品に係る環境影響物質についての、評価、分析業務を開始できるよう準備を開始いたしました。

高度な信頼性及び静浄度を要求される、ハードディスクドライブ用スピンドルモーター、アクチュエーター用ピボット等に使用されるボールベアリング用グリースの開発については、より一層の低トルク化、耐フレッチング性を改良した新規グリースについて各客先別に開発を完了し、量産に移行しております。また、既に量産に移行しております流体軸受を使用したスピンドルモーターについても、流体軸受用オイルを、クリーンルーム内に設置したパイロットラインにて、生産を開始いたしました。

当事業にかかる研究開発費は1,169百万円であります。

電子機器事業

浜松製作所 R & D センターでは、小型高性能モータや高周波領域の電磁波ノイズ対策の為の磁性材料の開発、高性能化を電磁場解析技術を駆使して取り組んでいます。

一方、光デバイス関連部品として、液晶パネル照明装置であるフロントライト・バックライトアッセンブリーに携帯情報端末などの入力装置として必須のタッチパネルを付加する開発や、光学薄膜技術をDLPプロジェクター用光学部品、液晶プロジェクター用光学部品に応用、展開させた高付加価値製品の開発を行っています。

更には、次世代の大容量光記録技術の一つである体積ホログラム記録の基礎研究に着手しています。

大森製作所では、自動車用の回転センサーとして高信頼・低価格のレゾルバの開発、自動車のスライドドアやバックドアに使用される小型電磁クラッチの開発、マグネットを使わず、高効率が得られるスイッチド リラクタンス モータの開発等を行っています。また、防衛庁の次期大型機として開発が決定したP-X(次期哨戒機)及びC-X(次期輸送機)の装備品の基礎検討を終え積極的に提案を行っております。

その他、各種小型モーターについてはドイツの開発拠点と、軽井沢製作所が共同して自動車関連モーター、高信頼性ファンモーター等の開発を進めています。

当事業にかかる研究開発費は3,487百万円であります。